

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	大山誘客受入強化事業			事業番号	24-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	辻 雅弘	商工観光課	小菅 賢一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち	
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり	
		施策展開の方向	11	多くの人が訪れる賑わいのあるまちをつくる	
		施策	24	魅力ある観光の振興	
予算事業名	大山・日向地域活性化推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務	<input type="radio"/> 法定受託事務	(選択してください)→		法令上の位置づけ 実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	
関連法令等					
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画			計画期間	令和元年度～令和3年度
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～			計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	大山地域は、豊かな自然環境と貴重な歴史的資源を有する地域ですが、首都圏近郊という立地条件にも関わらず年々宿泊客は減少し日帰り観光客が中心となっています。令和元年度には、伊勢原・大山インターチェンジが開通し交通条件の飛躍的な向上が図られるとともに、令和3年度には東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が予定されるなど、本市のPRと来訪者への受入態勢の整備に係る効果的な取組が求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	県の新たな観光の核づくり事業の認定を受けた「平成大山講プロジェクト」を推進し、大山・日向を中心とした丹沢大山の地域振興や国際観光地づくりを進めます。また、日本遺産に認定されたストーリーを構成する歴史・文化遺産や豊かな自然といった地域資源を活用した魅力づくりと効果的な情報発信を行うとともに、民間資本を活用した旅館街等のリノベーションに向けた研究を進めます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	国内外から大山、日向地区を訪れる観光客等				
事業内容 (手段、手法など)	「平成大山講プロジェクト」を推進し、フリーWi-Fiと観光アプリによる回遊促進、行楽シーズンの慢性的な交通渋滞解消に向けた警備業務の強化と駐車場情報の適切な提供、手書き地図の作製による地域資源の再発見・再評価及び「よりみち」の促進、レインツアーズによる誘客促進・滞在時間の延長、観光行事やイベントの充実・強化(四季を通じた誘客促進)、外国人観光客の受入体制の整備に取り組みます。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	観光行事・イベント	20イベント実施	20イベント実施	20イベント実施	
	外国人受入体制の充実	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	多言語観光パンフ作成 外国語案内業務実施	
駐車場・渋滞対策	満空表示の設置 行楽シーズンに臨時駐 車場を設置 シャトルバス運行	行楽シーズンに臨時駐 車場を設置 シャトルバス運行	行楽シーズンに臨時駐 車場を設置 シャトルバス運行 高速道路高架下駐車 場設計		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
	大山・日向地区の入込観光 客数	111万人 (平成28年度)	平成30年度 115万人	令和元年度 117万人	令和2年度 119万人



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を次年度に控え、国際観光地を目指す取組である「平成大山講プロジェクト」に係る各種事業を展開していくことで、本市観光資源の周知の拡大及び受入態勢の強化を図り、更なる誘客とピーターの確保、また、それに伴う地域の活性化に繋げていきます。				
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施		● 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	(一社)伊勢原市観光協会等	
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先	旅館、飲食店、商店等	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	観光行事・イベント	23イベント実施	25イベント実施		
	外国人受入体制の充実	他言語観光パンフレット及びマップの作成、大山インフォメーションセンター外国語案内業務の実施	他言語パンフレット等の作成、外国語案内業務の実施		
駐車場・渋滞対策	満空表示板の設置、多客期における臨時駐車場を設置及びシャトルバス運行の	市営大山駐車場満空表示板の運用、臨時駐車場の設置等			
実施した取組の内容	おおやまめぐりルート回遊促進事業、大山よりみち観光推進事業、大山レインツアーズ推進事業、県外高速道路サービスエリアでの観光PRキャンペーンなどを実施しました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
	大山・日向地区の入込観光客数	111万人 (平成28年度)	平成30年度 115万人	令和元年度 115万人	令和2年度

	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計 (a)		千円		千円		千円		千円		千円		千円	
内訳	国県支出金 ①		16,518	千円		3,370	千円		0	千円		0	千円	
	地方債 ②		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	その他特財 ③		0	千円		0	千円		0	千円		0	千円	
	一般財源 (a)-①-②-③		10,247	千円		9,564	千円		0	千円		0	千円	
国県支出金の内容		新たな観光の核づくり促進交付金(3,370千円)												
コスト	その他特財の内容	受益者負担	○ 有		● 無		前回の改定時期							
		その他												
人件費	正規職員	1.18	人	10,042	千円	1.02	人	8,874	千円	0	人	0	千円	
	その他の職員	0	人	0	千円		人	0	千円	0	人	0	千円	
	人件費合計 (b)	1.18	人	10,042	千円	1.02	人	8,874	千円	0	人	0	千円	
トータルコスト (a)+(b)				36,807	千円			21,808	千円			0	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	大山・日向地区観光客数		単位	大山・日向地区観光客数		単位	単位					
		対象数	1150190	人	1,153,261	人								
	総事業費 / 対象数	32	円	19	円	円								

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	観光行事や各種イベントの実施、また、インバウンドをはじめとする観光客の受入態勢の整備について、計画どおりの取組を進めました。なお、各種事業の実施にあたっては、県の交付金を活用した中で進めることができました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	県が進める新たな観光の核づくり事業に、大山地域(伊勢原、秦野、厚木の3市連携)、三浦市、大磯町の3地域が認定されています。当該事業については県内第4の国際観光地を創出する取組としてインバウンド対策事業の推進など他市より高い水準での観光施策に取り組んでいるものと考えられます。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	新たな観光の核づくり等促進交付金を活用した各種事業については、平成大山講プロジェクト推進協議会が母体となり行政をはじめ、民間団体、民間企業、大学等との連携により目的達成に向けた取組を進めていることから、地域の活性化が図られているものと考えられます。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である(C)	A	左記判断理由	事業の実施にあたっては、地域の関係団体や、大学、また近隣市との広域的な連携により各種取組を進めることで、更なる観光振興に努めました。

↓ 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	伊勢原大山インターチェンジの開設や東京2020オリンピック・パラリンピックの次年度開催を受けて来訪者の増加が見込まれることから、受入態勢の更なる強化が必要となります。また、令和2年度より県交付金等の補助率がこれまでの100%から50%に変更となったため、更なる効果的な取組の推進が必要となります。
令和2年度取組方針		県内第4の国際観光地の創出を目指す取組である平成大山講プロジェクトに位置付けられている各種事業を効果的に展開していくことで、大山、日向地域をはじめとする本市の魅力的な観光資源の情報発信を図り、入込観光客数及び観光消費額の増加に伴う地域の活性化に努めます。なお、各種事業の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断ならびに対応を図ります。		
所管部長による総評		本事業の実施にあたっては、国や県の補助金、交付金等を積極的に活用しながら進めていくものとし、多様化する観光客ニーズの把握及び迅速かつ柔軟な課題解決を図ることで、国内外からの更なる誘客と地域の活性化に繋がっていくものと考えられます。なお、各種取組の執行にあたっては、庁内横断組織である「連携・連動推進チーム」による協力体制も活用しながら取り組んでまいります。		